

暴露（針刺し）時に対する

H I V 感染予防薬内服の基準

【暴露のタイプについての評価】

A. 経皮的な暴露

軽度：非中空針による浅い傷など

重度：中空針による針刺し

肉眼で血液付着が確認できる針・器具による針刺し・切創

血管に刺入された針による針刺し（例：カテラン針、サーフロのような太さのもの）

深い針刺し（例：I V H の穿刺針や、透析時のバスキャスのような太いもの）

B. 粘膜や傷のある皮膚への暴露

少量：2～3 滴の血液・体液など

大量：大量の血液・体液飛散など

【感染源の感染状況の評価】

A. 感染源がH I V 陽性

クラス1：無症候性H I V 感染症あるいは血中ウイルス量低値（<1500copies/ml）

クラス2：症候性H I V 感染症、A I D S, H I V 初期感染、血中ウイルス量高値

B. H I V の状況不明の感染源（H I V 感染の検査が不可能な死亡した患者の血液・体液などによる暴露）

C. 感染源不明（廃棄箱の中にあつた針による事故などで誰の血液かわからないとき）

D. 感染源のH I V 陰性が確認されている

暴露のタイプ		感染源の感染状況				
		HIV 陽性 クラス1	HIV 陽性 クラス2	HIV 感染状況 不明の感染源	感染源不明	HIV 陰性
経皮的暴露	軽度	予防内服を推奨		予防内服不要 （*注）	予防内服不要 （*注）	予防内服 不要
	重度	予防内服を推奨				
粘膜や傷のある皮膚への暴露	少量	予防内服を考慮	予防内服を推奨	予防内服不要 （*注）	予防内服不要 （*注）	予防内服 不要
	多量	予防内服を推奨				

（*注）HIV 感染が考えられる場合は予防内服を考慮し、陰性が判明したら中止する。

■参考文献■

北海道大学病院H I V 感染症対策委員会,H I V 感染症診断・治療・看護マニュアル,改訂第9版